

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

手続きが、新年度から簡略化される。購読料精算で現場の先生が現金を扱わない方式に切り替わるほか、提供期間も前倒しで早い時期の購読が可能になる。

今回の手続きの見直しは財団の指定校に限られるが、新学習指導要領がスタートする新年度、現場のNIEへの理解が一段と進みそうだ。

日本新聞教育文化財団が進める新聞提供事業はこれまで、財団が全国各NIE推進協議会を経由して購読料を対象校に振り込み、受け取った学校が販売店に現金を支払ってその領収書で

手続きが、新年度から簡略化される。購読料精算で現場の先生が現金を扱わない方式に切り替わるほか、提供期間も前倒しで早い時期の購読が可能になる。

今回の手続きの見直しは財団の指定校に限られるが、新学習指導要領がスタートする新年度、現場のNIEへの理解が一段と進みそうだ。

日本新聞教育文化財団が進める新聞提供事業はこれまで、財団が全国各NIE推進協議会を経由して購読料を対象校に振り込み、受け取った学校が販売店に現金を支払ってその領収書で



豊かな知恵をばぐくむ

白糠町立茶路小校長 二枝 行憲

今から12年ぐらい前のこと。校長先生に「NIEについて聞いたことがある? 取り組んでみないか」と言われたのが、NIEとの出会いである。

今から12年ぐらい前のこと。校長先生に「NIEについて聞いたことがある? 取り組んでみないか」と言われたのが、NIEとの出会いである。

日、学校に送られてくるの驚いた。そして、もっともっと驚くことになる。心配する必要がないくらい、NIEとの出会いである。

日、学校に送られてくるの驚いた。そして、もっともっと驚くことになる。心配する必要がないくらい、NIEとの出会いである。

新情報を注意して読むようになつたり、本やその他の情報報を多角的に集めることができるようになるのに驚いた。

新情報を注意して読むようになつたり、本やその他の情報報を多角的に集めることができるようになるのに驚いた。

日本新聞教育文化財団が進める新聞提供事業はこれまで、財団が全国各NIE推進協議会を経由して購読料を対象校に振り込み、受け取った学校が販売店に現金を支払ってその領収書で

金額を確認する方法だつた。しかし、現場には煩雑な業務に映り、「改善して」との要望が絶えなかつた。

新方式は提供紙の購読料を各販売店がいつたん立て替え、年度末に財団と新聞

社の間で精算する仕組み。財団のNIE専門部会が検討に着手し、昨年12月に見直しが決まつた。

ただ、現場で現金を扱わなくなることで、「新聞は無料」と学校側が誤解しないか、という懸念が新聞社側に生まれている。この点について、各推進協はオリジナルテーションなどを通じ、対象校に「有料」を強調させるとともに、学校が新聞を注文する際も、販売店から立て替えの趣旨を十分説明し、「勘違い」な

どを防ぐことにしている。購読時期について、新規校は9月からだつたが、せつかの実践が秋にずれ込み、「遅すぎる」との声が出していた。今回、申し込みや審査手続きを前倒しすることで、新規校も5月からの提供が可能になる。

道協議会が独自認定する道協議会も手続きの審査手続を前倒しすることができ、新規校も5月からの提供が可能になる。

北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)でバックナンバーから閲覧できます

実践校の手続き簡素化

財団指定 購読料 現金精算やめる



本年度の、財団認定のNIE実践校は全国で533校(道内は31校)。新年度の実践校の選定作業もすでに進んでいるが、新指導要領に新聞活用による「言語活動の充実」が明記されたことから、道協議会も手続きの簡素化をさらにPRし、各校への積極的な取り組みを働きかけていく構えた。精算事務改善を確認した事務局長会議(1月26日、東京・日本プレスセンター)で「市町村紹介をやろう」など

新情報を注意して読むようになつたり、本やその他の情報報を多角的に集めることができるようになるのに驚いた。

新情報を注意して読むようになつたり、本やその他の情報報を多角的に集めることができるようになるのに驚いた。

新情報を注意して読むようになつたり、本やその他の情報報を多角的に集めることができるようになるのに驚いた。

新情報を注意して読むようになつたり、本やその他の情報報を多角的に集めることができるようになるのに驚いた。

室蘭・帯広セミナーで実践発表

当協議会主催のNIEセミナーは室蘭(2月5日・北海道新聞室蘭支社)と帯広(2月11日・同帯広支社)で開かれ、実践発表などを行った。セミナーはこれまで本年度予定した9カ所の全日程を終了した。

生徒にエコ意識育つ伊達中

室蘭・胆振セミナーには20人が参加。協議会アドバイザーを務める札幌市立屯田中央中の伊達峰史教諭が講演、月曜の朝自習の5分間を使って新聞記事を読ませるなど、読解力を養った自らの実践活動のポイント

を解説した。

実践発表では、室蘭市立陣屋小の高橋一仁教諭と伊達中の白山恭之教諭が、新橋教諭は道新小学生新聞グランプリなどを生かし、まとめさせていく事例を紹介

を解説した。
高橋教諭は道新小学生新聞グランプリなどを生かし、まとめさせていく事例を紹介



要約し書く力鍛える鹿追小

帯広・十勝セミナーには40人が参加。教諭5人が報告した。

鹿追小の北川恵子教諭は同小に設けた新聞コーナーの使い方に触れ、「新聞活用は、書きたいことを要約して書く力を鍛えることにつながる」と総括した(写

真)。鹿追小の北川恵子教諭は学級新聞の製作を通じて児童に意欲が芽生えた事例を紹介、これからもさまざまな実践と継続的に取り組んでいきたいと述べた。

帯広第四中の相沢紗香教諭は、校舎に取り付けた太

陽光パネルから生徒のエコ意識が芽生えた事例を取り上げた(写真)。

昨年のセミナーで新聞紙を使つたエコバックづくりを報告し、室蘭民報社のエコ大賞受賞と山梨県での研

究発表への参加が決まった洞爺高の狩野千賀子教諭は、新聞記事を使う同校生は、新聞記事を使う同校生の授業を紹介した。

帯広市立南町中の緑川ひろみ教諭は、限られた時間

で報告した。



北海道の中学校かべ新聞コンクールは立派な文化である—私はそのように考えています。全道各地の中学生が毎年、コンクール入賞を目指して懸命に新聞づくりを行います。出展される作品は、どれも力作ばかり。子どもたちは新聞づくりを通して構成の仕方、取材の仕方、記事の書き方などを学び、文章力、コミュニケーション能力、社会性、協調性を高め、根気強さを学びます。

このように、かべ新聞づくりが教育活動としての頑張りが、コンクール

良き文化と伝統 繙承を

根付いていることは大きな財産です。その背景には、かべ新聞のノウハウや指導法を確立し、全道に広めた先生方や新聞社

を支えているのだと思います。全道中学かべ新聞コンクールは今年で9回目。

道東大会は24回目を迎えました。出展し続ける学校には指導の積み重ねが

した後輩たちは、そうした作品に親しみ、自身の新聞づくりの糧とします。作業する時は先輩たちの隣で制作し、刺激を受けるながら、より良い作品づくりの知恵を出し合うのです。

かべ新聞の伝統がある学校に勤務することは、出し合い、談義するのも楽しい経験です。

本校のみならず、道内の多くの中学校に、かべ新聞の文化と伝統が息づいています。子どもと教師双方が新聞づくりの面白さと有用性をよく理解し、取り組んでいるからでしょう。作品を仕上げた子どもたちが卒業しても、異動で教職員の顔ぶれが替わっても、良き文化と伝統が継承されてい

ていかに効率良く、かべ新聞を製作するか「秘策」を披露した。時間の節約法と

して①事前に家で考えさせることで、最後にみんなで一つに絞る、などいくつかの方法を挙げた。

高校新聞で常に存在感を示し続ける帯広柏葉高の岩田勝美教諭はテーマ選びの苦勞などを報告。委託してつくり上げた作品や、学校として積み上げた指導の成果を、しっかりと保存していくことも容易です。

あり、伝統的な文化活動になっています。本校もそのような学校の方々の並々ならぬ努力と熱意があったと聞いています。そして各校で指導する先生や子どもたちの頑張りが、コンクール

教师にとってもたいへん有益なことです。子どもたちと共に考え、地域の1つに数えられています。校内には先輩方が作った新聞が掲示され、その努力の足跡を見ることができます。新たに入学す

る授業を紹介した。

洞爺高の狩野千賀子教諭は、チラシ広告などから日本の食料事情を考えさせ

子どもの臓器移植問題法改正後の動き紹介

**実践校
リポート**



新聞生き残りの道は

道研究会
冬季研修

田恵三会長（坂）の冬季研修会が1月11日、道内の会員の教諭ら40人を集めて札幌市中央区の北海道新聞本社で開かれた。

ミニ講演では、朝日新聞北海道支社の千葉光宏報道センター長が新聞の現状を報告（写真）。ネットの普及で身売り話が常態化した結果や、経費節減で生き残りの道を探る国内各紙の

改正臓器移植法が昨夏に施行されて半年。関係者の、その後を追った新聞記事を使い、生命倫理について考える授業が檜山管内の道立江差高で行われた。15歳未満も移植が可能になったが、実際の施術はゼロ。成人でも移植をどう受け止めるか、解決できない家族の心情も浮き彫りになった。正解のない、重い問いかけと向き合った生徒たちの授業をリポートする。（北海道新聞NIE推進センター委員・大井一樹）

江差高

1月27日午後、同校2年の32人が、武藤禎弘教諭の「生命倫理」の授業を受けた。選択科目の「現代の諸課題と倫理」。この中で法施行後の動きなどをまとめた読売新聞の記事を使つた。

倫理では、フランスの哲

学者デカルトの物心二元論

として、人間の体が物体に

すぎないとする考え方があ

ることを学ぶ。近代医学を

発展させてきた考え方の背

景を知り、難病治療のクロ

ン技術、代理出産、自己

決定権など、時代と共に変

わる生命の課題を考える。

動きを紹介した。

千葉氏は個人見解として「新聞は今までは生き残れない。しかし、存在しないことはありえず、どんな形にしろ記者の仕事は残り、必要性も高まる」とジャーナリズムを支える仕事を強調。「作り手側だけの論理ではなく、レイアウトを含めもっと読みやすい新聞にする検討を進めている」と自社の紙面見直しについて紹介した。

引き続き、3人が実践報

告。深川市立一巳小の鈴木

拓教諭がひらがなとカタカ

成人の移植が急増する一方、15歳未満の移植はゼロのまままだた。施行半年をまとめた、1面トップ記事を紹介した。

かわいい盛りの子が思わず事故などで脳死状態になり、かけがえのない命につき

武藤教諭は、これらを説明した上で記事コピーを配布。法改正で

つけられた厳しい現実に戸惑う家族の様子も関連記事で読み取らせた。臓器提供

が昨年、外国で受けた移植手術に成功し、新たなる死」と位置付け、臓器提供が中心となつたが、記事から初めて現実を理解した生徒たちは、それぞれ考えたことをワークシートに書き込んだ。

「死んでまで、子どもの体を傷つけたくない。脳が死んでいるといつても、体が生きているなら治療すべきだ」「辛い選択を迫られて死んだことがわかった。死んでしまった子が、違う一人を助けているという考えを

移植に否定的な意見を記入した生徒のワークシートには、こうも綴つてあった。

「でも大人にならドナ

ー・パンクに入りたい」。



改正法半年の記事から臓器移植について
考へた江差高の授業



北海道高校文化連盟新聞専門部の新聞指導研究会

見出し付けに挑戦

高校新聞指導研究会

今年で7回目。まず帯広農高の山本邦顯、札幌手稲高の田口耕平、北海高の原東一郎の現・元職合わせて3教諭が、高校での新聞制作の課題や現状について報告した。

このあと、北海道新聞NIE推進センターの堀川勉センター長を講師に見出しを付ける作業に挑戦した。

「効果的な紙面整理」と題して参加者全員が最近の新聞の記事本文を読んで、最もふさわしい見出しを考える実技研修。与えられた時間いっぱい使つて短い表現で簡潔にポイントを言い当てる、効果的な見出し付け

が、冬休み期間中の1月8日、北海道新聞社で開かれ

持つ人が一人でも現れてくれば、それが自分を責め、相談する人もないまま悩みを深めいく様子が報告されている。子どもたちの臓器はあげたくないと思う。でも、自分の子が移植の必要な体だったらどうしてよいかわからない

重い内容の割には時間が限られ、教科書の音読と板書が中心となつたが、記事から初めて現実を理解した生徒たちは、それぞれ考えたことをワークシートに書き込んだ。

改正法は、脳死を「人の死」と位置付け、臓器提供の意思が不明確な場合も家族の承諾があれば提供が可能となつた。札幌出身の少

女が昨年、外国で受けた移植手術に成功し、新たなる死歩を踏み出した。ひたすら

能となつた。札幌出身の少

ニュージーランド

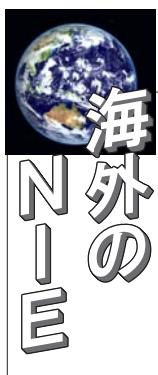
命館慶祥中学・高校（江別市）が中高一貫教育の一つとして行っている中学3年生のニュージーランド（NZ）研修を引率し、ほんの少しだが、現地のNIE事情に触ることができた。

今回向かったのは同国北島のハミルトン市にある「マエロア・インター・メディエイトスクール」。本校が提携する国内8つの協力校の1つで、民泊しながら日本の中学1、2年生に当たるクラスの授業への参加など、16日間の語学研修を行った。教員の教科ファイリング・ポックスに「NIE」の文字を発見した。ファイルの持ち主に尋ねたところ、以下のようなことがわかった。

①NIEは「Newspapers in education（教育に新聞を）」である。②教師は社会科の授業で教科書代わりに教材を使う。③教材は、同国でいくつかのメディアを所有する「フェアファックス・メディア（Fairfax Media）」が製作している。④

命館慶祥中学・高校（江別市）が中高一貫教育の一つとして行っている中学3年生のニュージーランド（NZ）研修を引率し、ほんの少しだが、現地のNIE事情に触ることができた。

教科書代わりに独自教材



(6)



数学の授業で本校の生徒と計算の速さを競う生徒たち=ハミルトン市内のマエロア・インター・メディエイトスクール

編集後記

○…隔月発行の、この通信が50号を迎えた。2002年12月16日に道推進協議会の機関紙としてスタート。協議会の初代会長だった小林甫・北大名誉教授が寄せた創刊の辞の中でNIE関連ニュースや話題の提供、自治体・NPOなどへの寄稿を呼びかけた。

○…次の2号で「ファミリー・フォーカス」の実践の動きを紹介する寄稿を掲載した。筆者は当時、士別商高にいた毛利禎晴・札幌丘珠高教諭。家族ぐるみで新聞を読み、意見を交換しながら読み方を学んでいく手法だ。

○…この「ファミリー・フォーカス」がいま、当協議会を含め、全国で実践の核になりつつある。日本新聞文化財団が募集する新聞感想文コンクールでも取り入れている大事な要素の一つ。実は家族が一緒に、あるいは代わる読むのが新聞の特徴でもある。世代間交流を進め、若い人や子どもにもっと触れる機会を持つてもらおう、その視点をこれからの方でも大切にしていきたい。（大）

教材は小学生から高校生レベルまで、社会科以外の他の教科にも対応できるよう編集されている。⑤教材の編集は編集者と教育現場の協力関係で成り立っている、など。

ニュージーランドは6歳から16歳までの義務教育制。フェアファックス・メディエイトスクールは、経済紙の「オーストラリアン・フィナンシャル・レビュー」や「ニュージーランド・ヘルルド」を発行する総合メディアで、ネットと併用でタブロイド判カラー8頁の教材をつくっている。教師用と保



ハミルトン

時事問題特集し解説

この号は各頁にわたり、五輪の成り立ちや競技種目を解説。空欄を埋める「穴埋め問題」があった。チケットの民主化デモの写真を使つてなぜ聖火リレーが中断したか、などを論じたり、縦横15問、最大9文字を埋めるクロスワードパズルもあった。次の号では選挙について取り上げた。

日本に比べ、授業では教師による具体的指示や統一されたものが少ないようになされた。本人の自由意志に任せ、教科書を使わない時間も多い中、社会科をはじめ、いくつかの教科に必要な知識を補完する手段としてNIEは有効と感じた。ワークシート的使い方も興味深く、多角的に可能性を追及していく面白さを確認できたように思う。

（立命館慶祥中学校・高等学校教諭 山口太一）



は「新聞」が数多く登場していく。問い合わせは、当協議会事務局へ。
5 2 1 0 0 2 8 0 2

NIEガイド 小学校編完成 実践校に配布

2011年度から新学習指導要領・解説書に沿って、新しい教科書が小学校で使われるのに併せ、日本新聞文化財団が作成している教科用ガイドブック「新聞活用の工夫提案」NIEガイドブック小学校編」が出来上がった。写真II。

A4判72ページ。国語、社会、総合、道徳、特別活動など全教科にわたり、教科書に沿った新聞活用法などを掲載。新指導要領は新聞活用が実践指定校に無料配布するほか、希望者には1部350円（送料別）で提供する。

執筆陣は、東京、大阪、京都などの小学校教諭。財団ではまず5千部を印刷し、財団が認定するNIE実践指定校に無料配布するほか、希望者には1部350円（送料別）で提供する。

新指導要領は新聞活用が実践指定校に無料配布するほか、希望者には1部350円（送料別）で提供する。

新指導要領は新聞活用が実践指定校に無料配布するほか、希望者には1部350円（送料別）で提供する。